

【小学6年生及び中学生を対象とするSNS Chat!を活用した情報モラル指導例】

第〇学年特別活動学習指導案（情報モラル）

日 時 平成〇年〇月〇日（〇）〇校時

児 童 〇〇〇立〇〇〇学校〇年〇組

男子〇名女子〇名計〇名

指導者 岩手県立総合教育センター

情報・産業教育担当 〇〇 〇〇

1 情報モラル指導について

学習指導要領の総則において情報モラルを身に付けるよう指導することが明示されている。これは、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、犯罪や違法・有害情報などの問題が発生していることや情報社会に積極的に参画する態度を育てることがますます重要になってきていることなどが背景にある。情報モラルとは「情報社会で適正に活動するための基となる考え方と態度」のことであり、その内容は下に示す2領域5分野に分類される。

領域	分 野	内 容
心を磨く	情報社会の倫理	情報に関する自他の権利を尊重して責任ある行動を取る態度
	法の理解と遵守	情報社会におけるルールやマナー、法律があることを理解し、それらを守ろうとする態度
	公共的なネットワーク社会の構築	情報社会の一員として公共的な意識をもち、適切な判断や行動を取る態度
知恵を磨く	安全への配慮	情報社会の危険から身を守り、危険を予測し、被害を予防する知識や態度
	情報セキュリティ	生活の中で必要となる情報セキュリティの基本的な考え方、情報セキュリティを確保するための対策・対応についての知識

情報モラルは3つの観点で示される情報教育の目標（A情報活用の実践力 B情報の科学的な理解 C情報社会に参画する態度）のうちの「情報社会に参画する態度」の重要な柱である。ここでは情報社会に積極的に参加し、よりよい社会にするために貢献しようとする意欲的な態度を養うことを最終的に目指している。このことから考えて「情報モラル教育」とは情報化の「影」の部分を理解することがねらいなのではなく、情報社会やネットワークの特性の一側面として影の部分を理解した上で、よりよいコミュニケーションや人と人との関係づくりのために情報手段を上手に賢く使う判断力や心構えを身に付けさせる教育であることを念頭に置かなければならない。進め方においては特定の教科だけで進めるものではなく学校教育全体で行っていく。

岩手県立総合教育センターでは有害サイトやインターネットの仕組みについて子供たちが安全にかつ体験的に学習することができる教材「情報サイトLAN」や「スタモバLAN」等を開発し、県内の各学校における情報モラル教育の推進を支援してきた。

一方、情報化社会の激しい変化に伴って、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）利用による事件、事故、問題等が多発しその内容も多様化してきている。これらの事象に対応した指導が学校現場で常に求められている。

当センターでは、平成27年度に新たな情報モラル指導教材「SNS Chat!」を開発し、情報化社会の変化に対応した指導の在り方を探っている。本指導においても、限定された数名の仲間同士が相互に会話できる機能を活用し、仲間同士のかかわり方について考えを深めることができることをねらっていく。

2 本時の指導

(1) 目標

- ・情報モラル指導教材SNS Chat!を活用し、友達同士のよりよい関係づくりの仕方について考えることができる。

(2) 指導の意図

本題材では、5人の仲よしグループ内で起こったSNS上でのトラブルを取り上げる。5人は一緒に花見に行く。リーダー的存在の子(A)が、ツイッターにみんなで撮った写真を掲載したことをグループ内の会話(LINE)で伝えると、2人(B、C)は勝手に写真を掲載したことを怒り、これ以外のこれまでの(A)の行動に対する不満までぶつけてくる。一方、他の2人(D、E)は(A)の行動に対して不満を感じてはいない。不用意に写真を掲載したことについて謝っている(A)について許す態度を示している。

このように、トラブルの原因を作った子、その子に対し怒りをぶつけている子、トラブルを大きくさせたくない気持ちが働いている子という立場の違う状況下におけるやりとりをSNS Chat!を用いて学級内の子供同士で進めさせる。

グループ内の役割は無作為に振り分ける。また、グループ内では互いにメンバーが誰かは分からない形で進め、本題材のあらすじに沿いながら、登場人物の置かれた状況や性格に基づき、会話を進めていくこととする。よりよい関係づくりの仕方について考えるという本時の目標に迫るため、関係改善に向かうことを意識して進めるようにしたい。グループは基本的に5人で構成するが、4人の場合は(E)を除いた(A)(B)(C)(D)で役割分担する。

まとめの段階では、それぞれ3つの立場で書き込みを行った活動に対して感想を聞きながら、相手の立場に立った思いやりのある発言を取り上げるなどして、友達同士のよりよい関係づくりに必要な要素をまとめていきたい。また、感想の中からもとめる内容が不足した場合は、会話の中でよりよい方向に向かった内容を取り上げていきたい。子供たちの会話について評価できると考えられる視点の例として以下の6点を挙げる。

- ・丁寧な文末表現により柔らかい印象を与えている点(全員)
- ・相反する考えに一旦共感するなど相手理解をしようとしている点(全員)
- ・過ちに対し素直に謝り、関係改善に向かおうとしている点(特にAの立場)
- ・事象を一面でとらえずに、客観的・俯瞰的に見つめている点(特にD、Eの立場)
- ・関係改善に向かう建設的な意見を出している点(特にD、Eの立場)
- ・会話を進めていく上でよりよい考えに方向を変える点(特にB、Cの立場)

これらの内容は、SNS上の会話だけでなく、普段の仲間とのよりよい接し方と共通することである。相手の立場に立って考えることの重要性について再認識させたい。

当センターで開発した情報モラル指導教材は、サーバの管理者ツールから誰の書き込みかを特定することができ、通常その機能を指導に生かしているが、本時においては、書き込んだ者を特定しない形を原則として進めていく。

(3) 資料(スライド)

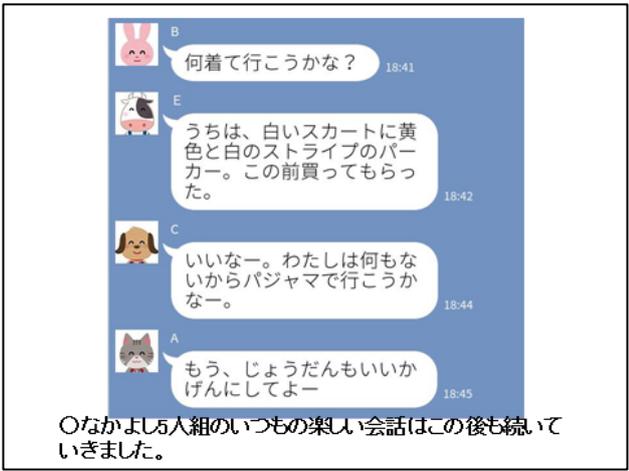
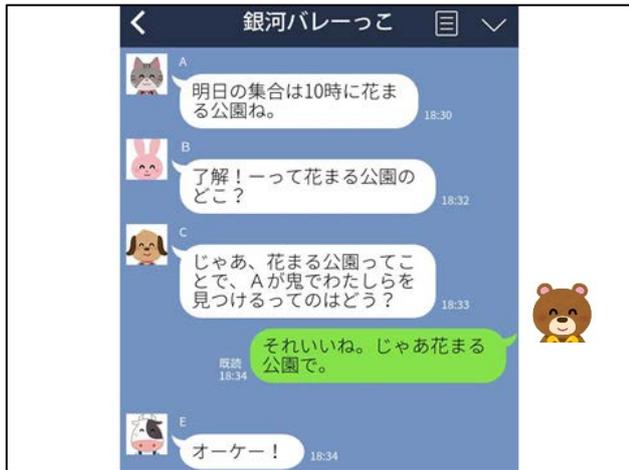
次のお話について考えよう

花巻銀河中学校のなかよし5人グループの中で
おきたできごとです。


A B C D E

○中学2年生に進級し、同じバレー部の仲間と花見に行く計画を立てました。

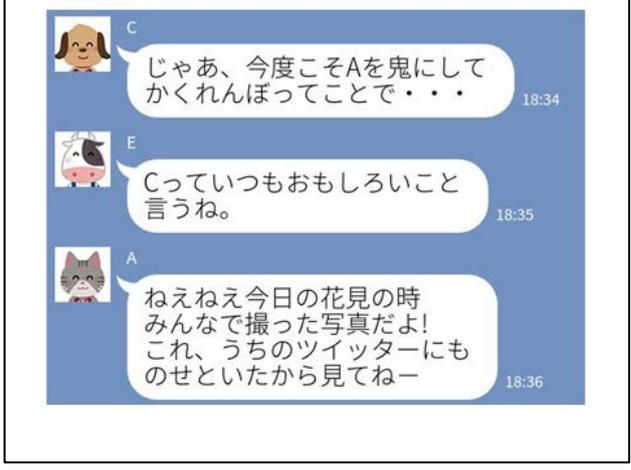
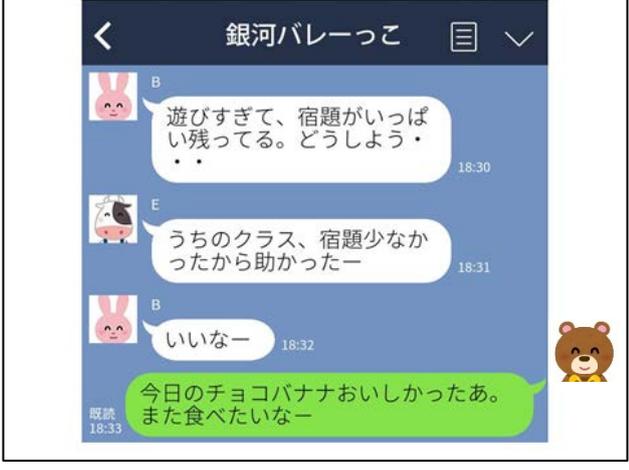
○花見前日のSNS上の会話です。



○次の日(花見当日), 天気もよく, 5人は大はしゃぎ。花よりだんごで, 出店のたこ焼きや焼きそば, チョコバナナなどを食べながら夕方までたっぷり楽しい時間を過ごしました。

○花見が終わり, 家に帰ってからのSNS上の会話です。

○なかよし5人組のいつもの楽しい会話はこの後も続いていきました。



展開 1 8 分	<p>2. 資料の内容の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲良し5人グループの関係を把握する。 グループのみんなが写っている写真を不用意に掲載したことで問題が生じたことをとらえ、5人の立ち位置を確認する。 <p>3. 学習課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 5人グループのSNS上で問題が発生し、その後の会話を5人になりきって進めることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 5人は、冗談を言い合いながらいつも楽しく過ごしている大の仲良しグループであることをおさえる。 会話の中から5人の性格の大体をとらえさせる。 関係改善に向かっていくことを意識しながら進めていくことを促す。 	サーバ用 PC スマートフォン プロジェクター スクリーン
展開 2 15 分	<p>4. SNS Chat!による交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 5人グループの関係が悪化しそうな状況の続きについて割り当てられたグループでやりとりをする。 <p>【価値付けたい会話例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 丁寧な文末表現により柔らかい印象を与えている会話 「謝っているんだし許してあげようよ。」 「今回は許してあげるか。でもこれから気をつけてね。」 相反する考えに一旦共感するなど相手理解をしようとしている会話 「Dがそこまで言うなら仕方ない。許そう。」 過ちに対し素直に謝り、関係改善に向かおうとしている会話 「反省しているよ。これからも友達でいてね。」 「次はみんなの意見も聞いて決めるからね。」 事象を一面でとらえずに、客観的・俯瞰的に見つめている会話例 「勝手に時間を決める話は関係ないよ。」 関係改善に向かう建設的な意見を出している会話例 「明日直接会ってみんな話そうよ。」 「今回はAのことだけど、うちらもお互い気をつけないとね。」 会話を進めていく上でよりよい考えに方向を変える会話例 「花見で悪いことしたわけじゃないからこの話は終わりにしようよ。」 「明日先生に相談してみようか。」 	<ul style="list-style-type: none"> 個人を特定せずに資料の中の状況や登場人物の性格等に合わせて進めさせる。 会話が進まないような場合は、進んでいるグループの様子を示したり、あらかじめ準備しておいた展開例を示したりして進めやすいようにする。 	サーバ用 PC スマートフォン プロジェクター スクリーン

友達どうしの会話で気をつけたいことはどんなことだろう。

<p>終末</p> <p>10分</p>	<p>5. 学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して気付いたよりよい友達同士の関わり方について知る。 <p>6. 本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際のやりとりの感想を発表させ、子供たちが感じとったことを基にしながらよりよい関わり方についておさえる。 ・感想だけでなく、会話のやりとりの中で評価できる視点について価値付け、よりよい関わり方を充実させる。 ・振り返り用シートに友達同士の関わり方で気を付けたいことを中心に記述させる。 <p>◇友達同士の関わり方で、相手のことを思いやった行動をとることについて主体的に実践しようとしている。【思考・判断・実践】</p>	<p>サーバ用 PC プロジェクター スクリーン</p> <p>振り返り用シート</p>
----------------------	--	--	--

3 学習指導の別展開

本指導案を基本にしながら、学級の実態に即して別の展開方法も考えられる。

- (1) グループを 4 人で構成し、トラブルの原因を作った (A) の役割を抜かした者で交流させる方法。
- (2) 役割分担せずに、5 人グループの中に一緒に入っているメンバーとして自由に記述させる方法。
- (3) 役割分担せずに、この後の関係改善に向かう方法を記述させる方法。